

医学部コンピテンシー・マイルストーン

コンピテンシ		コンピテンシー			
		レベル1 (第2学年修了時)	レベル2 (第4学年修了時)	レベル3 (卒業時)	
I 医学知識	1)	a	医学の理解に必要な自然科学の知識を身につけ、基礎医学の学修に応用することができる。	医学の理解に必要な自然科学の知識を身につけ、臨床医学の学修に応用することができる。	自然科学の知識を診療や医学的議論に応用することができる。
	1)	b	人の行動と心理(行動科学)の基本について説明できる。	人の行動と心理(行動科学)について、人体の構造や機能と結びつけて説明できる。	人の行動と心理(行動科学)に関する理解を医療に応用することができる。
	1)	c	人体の正常構造と機能や生命現象に関する知識について概説できる。	人体の正常構造と機能や生命現象に関する知識を習得し症状の理解に応用できる。	疾患の症状について、人体の正常構造と機能や生命現象に関する知識に基づいて説明できる。
	1)	d	疾病の病因・病態・治療の裏付けとなる基礎医学事項について理解し、概説することができる。	疾病の病因・病態・治療について、その裏付けとなる基礎医学的項目との関連性を踏まえて理解することができる。	疾病の病因・病態・治療について、その裏付けとなる基礎医学的項目との関連性を踏まえて説明することができる。
	1)	e	主な病態の基本的事項について理解し、正常との違いを概説することができる。	主な疾患について、鑑別を要する疾患を列挙し、病態や診断基準等と照らし合わせて考察できる。	疾患の病態と症候を説明でき、その鑑別と診断を計画できる。
	1)	f	医療における臨床推論の意義について理解し、説明できる。	病歴、診察所見、検査結果等の情報により適切な臨床推論を行い、それについて説明することができる。	病歴、診察所見、検査結果等の情報を整理して臨床推論を行い、それに基づく診療を行うことができる。
	2)	g	一部の病態の治療法について概説することができる。	主な疾患の基本的な治療法について、原理を含めて説明できる。	種々の疾患の適切な治療法を理解し、説明できる。
	2)	h	予防医学の重要性を理解できる。	疾患予防や健康増進の具体的な方策について理解し、説明できる。	予防医学や健康増進の方策に関する知識を診療に応用することができる。
II 臨床能力	1)	a	患者やその家族への説明と同意(インフォームドコンセント)の意味と重要性について説明できる。	インフォームドコンセント取得の方法について説明できる。	医療現場においてインフォームドコンセントの取得を正しく実践できる。
	1)	b	適切な言葉で質問をすることで相手に正しく理解してもらい、必要な情報を含んだ返答を得ることができる。	患者の病歴を聴取する際の注意点に配慮し、医療面接を実施できる。	適切な医療面接で患者の病歴を正しく聴取して整理できる。
	1)	c	身体診察と基本的臨床手技及び救命救急措置について、基礎医学事項を基に概説できる。	身体診察と基本的臨床手技及び救命救急措置の方法について具体的に理解し、概ね実施できる。	身体診察と基本的臨床手技及び救命救急措置を適切に実施できる。
	1)	d	日常診療でよく用いられる検査について、基礎医学事項を基に原理や手技の概要を説明できる。	日常診療でよく用いられる検査について、検査結果を解釈できる。	病歴や身体診察の結果から必要な検査を選択し、検査結果を解釈できる。
	1)	e	診療記録や医療文書を適切に作成することの重要性について理解し、説明できる。	診療記録や医療文書の種類について理解し、それぞれを作成する方法について説明できる。	診療記録や医療文書を適切に作成できる。
	2)	f	医療における安全管理の基本原則を説明できる。	医療安全管理体制の在り方を理解し、医療現場におけるインシデントやアクシデントに遭遇した際の対応方法について説明できる。	医療現場におけるインシデントやアクシデントに遭遇した際に適切に対応することができる。
	2)	g	感染予防策の必要性について理解できる。	感染予防策の原理や具体的な方法について説明できる。	感染予防策を実践することができる。
III プロフェッショナルリズム	1)	a	医師として適切な言葉遣い、態度、身だしなみの重要性について理解できる。	医師として適切な言葉遣い、態度、身だしなみについて具体的に説明できる。	医師として適切な言葉遣い、態度、身だしなみで患者やその家族に接することができる。
	1)	b	医師に求められる倫理感の重要性について理解できる。	医の倫理や生命倫理について具体的に説明できる。	医師に求められる倫理観を身につけ、常にそれを拠り所とした医療を実践できる。
	1)	c	患者やその家族のプライバシーに配慮し、守秘義務を厳守することの重要性を理解できる。	患者や家族のプライバシーに配慮し、守秘義務を厳守することの重要性や漏洩したときの影響を説明できる。	患者や家族のプライバシーに配慮し、守秘義務を厳守して医療を実践することができる。
	1)	d	研究倫理に配慮した医学研究の重要性を理解できる。	研究倫理に配慮した医学研究の重要性を説明できる。	研究倫理に配慮した医学研究に関与することができる。
	1)	e	医学研究における利益相反等、研究倫理に関わる問題を理解できる。	医学研究における利益相反等、研究倫理に関わる問題について説明できる。	利益相反等、研究倫理に関わる問題を理解して、適切に行動または判断できる。
	2)	f	患者と家族の心理・社会的背景を理解することの重要性を説明できる。	患者と家族の心理・社会的背景を理解した上で、適切な医療とは何か考えることができる。	患者と家族の心理・社会的背景に配慮しつつ病態に応じた適切な医療を提案できる。
	2)	g	多職種からなるチームで医療を展開することの重要性を説明できる。	チームの一員として他の職種の専門性や立場も考慮しながら問題を考察できる。	医療チームの一員として協調性を持って行動し、効果的な役割を果たすことができる。
	2)	h	チーム医療の意義を理解できる。	チーム医療の意義やあり方について説明することができる。	チーム医療の意義を理解しチームの一員として診療に参加できる。
	2)	i	医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を理解できる。	医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を概説できる。	医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性について、例を挙げて説明できる。
	2)	j	自らの知識や技能を多職種で共有すること、また後進に伝え、後進を育成することの重要性を理解できる。	自らの知識や技能を多職種で共有すること、また後進に伝え、後進を育成することの重要性を説明できる。	自らの知識や技能を多職種で共有しそれを後進に伝え、後進を育成することの重要性を例を挙げて説明できる。
	2)	k	患者や患者家族とコミュニケーションを通じて、良好な関係を築くことの重要性と注意点を説明できる。	模擬患者と医療及び医療以外の内容を含むコミュニケーションを通じて、良好な関係を築くことができる。	患者や患者家族とコミュニケーションを通じて、良好な関係を築くことができる。
IV 能動的学修能力	1)	a	医学部で学ぶ上での自己の目標を設定し、学修計画を立案することができる。	自己の立案した計画に基づき、能動的な学修行動を継続することができる。	学修成果の振り返りに基づき、さらに効果的な学修計画を立案し、実践することができる。
	1)	b	内発的モチベーションによる自己学習の重要性を理解できる。	自らの内発的モチベーションを高めるための方策を見出し、それを実践することができる。	内発的モチベーションに基づく学修を継続し、医学・医療の知識、技能、態度を維持向上することができる。
	1)	c	教養系科目及び基礎医学系科目を学修する上で、医療従事者としてのモチベーションを継続して保持することができる。	臨床医学系科目及びC/Cの学修に臨み、医療従事者としてのモチベーションを継続して保持することができる。	医学部卒業を目前に控え、医療従事者としてのモチベーションを継続して保持することができる。
	2)	d	ICTツールの種類や適切な活用法について理解し、一部の科目では試行できる。	種々のICTツールを適切に活用しながら、学修を進めることができる。	種々のICTツールを適切に活用しながら、医療を実践することができる。
	2)	e	情報活用能力(情報リテラシー)の重要性を理解し、正しく身に着けることができる。	正しい情報リテラシーを自らの学修行動に反映させることができる。	正しい情報リテラシーを自らの診療に反映させることができる。
V マイサード・チ	1)	a	医学研究の意義を理解し、説明できる。	医学研究で用いられる基本的な手技や方法、理論について経験し、実践することができる。	診療情報からクリニカルクエストをもち、医学研究の視点から解釈して病態や治療への興味や関心を維持し、必要に応じて研究を行うことができる。
	1)	b	「科学的根拠に基づく医療」(EBM)の重要性を理解できる。	統計学や疫学の基本的知識を身につけ、それを活用しながら「科学的根拠に基づく医療」(EBM)について説明できる。	ガイドラインや論文の情報を活用して、「科学的根拠に基づく医療」(EBM)を実践できる。
	1)	c	学術論文の構成要素を意識した読解や批判的評価に関心をもつことができる。	学術論文の構成要素を意識して読解し、理解した内容を整理することができる。	学術論文の構成要素を意識して読解し、著者の意見とその根拠、論文から主張できる限界などを示すことができる。
	1)	d	最新の医学系学術論文の読解や批判的評価に関心をもつことができる。	最新の医学情報や医療技術に対する自分の考えを持つことができる。	最新の医学情報や医療技術に対する自分の考えを専門的議論の場で述べるすることができる。
	2)	e	最新の医学・医療研究に関心をもつことができる。	最新の医学・医療研究に携わる意欲を持つことができる。	最新の医学・医療研究に携わることができる。
VI 社会的視野	1)	a	地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を理解できる。	地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。	地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割と具体的な取り組みについて例をあげて説明できる。
	1)	b	医療と社会経済の関係性について理解できる。	地域の医療と社会経済の現状について概略を説明できる。	地域の医療状況、社会経済の状況を含めた特殊性や課題を考慮して医療を実践できる。
	1)	c	医療計画、地域医療構想の重要性について理解できる。	医療計画、地域医療構想の重要性について概説できる。	居住地の医療計画、地域医療構想について説明できる。
	1)	d	日本の社会保障制度について概説できる。	日本の社会保障制度に基づく医療体制の現状について具体的に説明できる。	日本の社会保障制度や医療関連法規を正しく理解し、それに基づいて医療を実践できる。
	1)	e	医師の社会的使命とは何か、それを果たすとはどのような状態かを常に考えている。	医師が社会的使命を果たすことの重要性を説明できる。	医師として社会的使命を果たすため、信頼できる行動をとることができる。
	2)	f	海外における疾患の発生状況や医療体制に関心を持って適切な情報を収集することができる。	海外における疾患の発生状況や医療体制について概説することができる。	海外における疾患の発生状況や医療体制を踏まえて、国内での医療実践に役立てることができる。
	2)	g	医師が国際的視野を持つことの重要性を理解できる。	国際的視野を持つ上で必要な語学力や情報収集力の重要性を理解し、その涵養に努めることができる。	海外での医療や医学研究に参加することも視野に入れて行動することができる。
VII 人間性	1)	a	医師は、医学の分野だけでなく、社会人としての一般常識や教養を求められることについて理解できる。	一般常識や幅広い教養を身につけるための情報収集や機会の活用を積極的に行うことができる。	自らが身につけた一般常識や教養を活かすことで、より質の高い診療を実践することができる。
	1)	b	第二外国語の学習を通じて、文化や人間の個性と多様性について考えることの意義を感じることができる。	第二外国語や医療問題の学習を通じて、文化や人間の個性と多様性について理解する意義を概説できる。	第二外国語や医療問題の学習、海外との交流を通じて文化や人間の個性と多様性を理解する意義について説明できる。
	2)	c	他者の多様な価値観を尊重する必要性を理解できる。	他者の多様な価値観を尊重する重要性を説明できる。	他者の多様な価値観を尊重した上で、適切な行動をとることができる。
	2)	d	他者の社会的背景や価値観が多様であることを理解する。	様々な社会的背景や価値観を持つ他者に対してどのように接するべきかを考えて行動することができる。	患者やその家族あるいは同僚を含める医療従事者の社会的背景や価値観を理解して、適切な医療を行うことができる。

※コンピテンシ欄の片括弧内の数字は、ディプロマ・ポリシーの詳細項目の番号を示す。